

何か失われるものが . . .

最近、学校の課題や教員研修の課題に、ICT機器の導入がある。

簡単にいうと、タブレット型端末の導入である。すでに、学校にはコンピュータ教室や一部にはインターネットに接続され電子黒板があり、基本的な環境は整っている。しかし、あれだけ表現力とモバイル力があり、スマホ世代の子供と先生にとっては魅力だろう。

先日、中日新聞に「便利だけど」という記者のコラムがあった。内容は、カーナビが故障し、運転に四苦八苦したこと。便利な世の中だが、「地図を読み取る力」「方向感覚」というか大切なものが衰えてきたというものである。

若者は、自動車運転と同時に（というか生まれてすぐ）モバイル機器で目的地にたどり着くので、上記の力が衰えるどころか持っていないというか必要がないのかもしれない。

こんなことをいうと年寄り臭くなるが、我々は、鉛筆で書き、辞書や地図で情報を集め、「基礎」を体験した後からコンピュータ等の機器が入ってきた。今は、極論すると「基礎」がないままの機器活用である。心配である。

先進的(?)とされる学校では幼稚園や小学校低学年からこのような機器が導入されていて、顧客はそちらに関心が向く。しかし、普通の家庭や普通の学校では、鉛筆や地図や辞書も生きているし、しっかり活用されている。要はバランスだろう。

最近、若手の授業を見ていると、ちょっと努力をすれば、実物を見せ、使わせることができるのに、「ICT活用」の名の下に安易な情報提示をしてしまう。導入されたので、使わないといけないのだろうが、教科の本質がこわされているし、教員育成に悪い影響が出てこないか心配である。

結論としては、我々ベテランが若手に対し、上手な手綱さばきをしないとけないだろう。

「デモ、イイカ . . . 。ワタシハ、アト10ネンデ、タイショクダ。ツギノジダイニマカセヨウ。」ト、オモウコトモアル、キョウコノゴロデアル。